

令和5年度 教育課程特例校(外国語教育)編成の方針

恵那市立三郷小学校

1 これまでの取組と特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本校では、平成12年度から外国語教育に取り組み、低学年から外国語（英語）に慣れ親しんでいる。平成28・29年度は、岐阜県英語教育イノベーション戦略事業「第2期英語拠点校区事業」として、本校を含む恵那市立西中学校区の4校が連携し、「三郷メソッド*」を活用した授業実践を積み重ねてきた。平成30・31（令和元）年度は「【オール東濃】小学校外国語アクションプラン」、令和2・3年度は「【オール東濃】小学校外国語科スタートプラン」の指定を受け、積み重ねた授業実践を東濃管内の小学校へ広めてきた。令和4・5年度は「【オール東濃】小・中外国語科接続プラン」の指定を受け、小・中学校9年間を通した系統的な指導の確立をめざしていく。

*「三郷メソッド」：6年間を見通した単元指導計画をもとにした、学級担任が主体となつて行う外国語活動のスタイルを指す。単位時間ごとの役割を明確にした単元のパターン化により、英語科専門教師でなくても自信をもって授業ができる。

2 特別の教育課程の概要

研究主題を「自分の伝えたいことを考えながら話す姿を生み出す外国語科・外国語活動の指導」とし、児童が相手や場面、状況等に応じて、臨機応変に考えながら表現できる児童を目指し、1～4年で外国語活動、5・6年で外国語科を実施している。

第1・2学年において、生活科の時間を35時間削減して、外国語活動「三郷メソッド」を実施している。児童の生活場面や地域の出来事に関わる内容を題材として、聞く・話す活動を取り入れることで、生活科の内容（8）にある「言葉の交流だけではなく表情やしぐさ、態度といった感情の交流を通して身近な人々と関わることのよさや楽しさを味わわせることや、進んで交流しようとする事について補充している。

第1・2学年では外国語に慣れ親しむことを主なねらいとし、「聞く」「話す」活動を中心に学習内容を系統的に整理し、第3・4学年の外国語活動35時間および第5・6学年の年間70時間の外国語科の学習に円滑に移行できるようにしている。

今年度は、さらに中学校の英語科の学習へのスムーズな接続をめざして、市内および東濃管内における外国語活動および外国語科教育の拠点校として、質の高い教育実践を他校へ広げようとしている。

3 特例の適用開始日

平成21年4月1日 ～ 教育課程特例校指定
平成30年4月1日 ～ 変更
令和2年4月1日 ～ 変更
令和4年4月1日 ～ 変更

4 本特例内容の取組期間

令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日